

=====

THE VEDANTA KYOKAI

日本ヴェーダーンタ協会の最新情報

2004年3月 第2巻 第3号

<http://www.vedanta.jp/multimedia/pdf/newsletter/index.html>

(PDFファイル・英語バージョン)

=====

目次

- ・かく語りき？聖人の言葉
 - ・今月の予定
 - ・忘れられない物語
 - ・2月の例会
 - ・今月の思想
 - ・近況報告
-

かく語りき？聖人の言葉

「シュリ・ラーマクリシュナを信じてすがりなさい。そうすれば苦しみから救われ心の平和を授けてもらえます。神の御名を唱え、シュリ・ラーマクリシュナが他人の身代わりとなって受けた悪行の報いの苦しみに深い思いを寄せなさい。

そうすればあなたの心と体は清められます。シュリ・ラーマクリシュナは純粹無垢な神の申し子であったのに、他人のために苦しみ、しかもマアの想いに浸る至福に満ちた恍惚の喜びを一瞬たりとも忘れなかったことを思い出せば、あなたの苦しみや悲しみなど取るに足らないことだと分かるでしょう。」

ホーリー・マザー、シュリ・サラダ・デヴィ

「心はすべての感覚を導く。心は現象界のすべての要素の中で最もとらえにくいものだ。物質的なことに意識が向いてしまうのは心のせいである。純粹な心を持ちその心に従って話し、ふるまう人に、幸福は影のように寄り添い決して離れることはない。」

ブッダ

先月の行事

・生誕日

シュリ・ゴウランガ・マハブラブ 3月6日

スワミ・ヨガーナンダ 3月10日

ラームナーヴァミ(ラーマの生誕日) 3月30日

・協会での催し物

例会 3月21日(日) 午前10時30分

シュリ・ラーマクリシュナの生誕祝賀会

同日 午後3時 聖歌演奏会

忘れられない物語

禅師とキリスト教徒

一人のキリスト教徒が禅師のもとを訪れて言った。「『Sermon on the Mount (山上の垂訓)』を読みますから聞いていただけませんか。」「喜んで拝聴しましょう。」と師は言った。キリスト教徒は一文読むと顔を上げた。師は微笑んで言った。「この言葉の主は、真の英知を持った人だ。」この言葉にキリスト教徒は喜び、読み続けた。師はしばらく聞いていたが、口を挟んで言った。「この言葉の主は、人類の救世主に違いない。」キリスト教徒の心は喜びに躍り、さらに読み続けた。師は断言した。「この説教を説いたものは神の光で輝いている。」

キリスト教徒は、喜びではちきれそうだった。彼はそのまま去ったが、心の中では、また師を訪ねて説得しキリスト教に改宗させようと決めていた。

帰り道、キリスト教徒は道端にイエスが立っているのを見た。彼は興奮して言った。「主よ、私はあの男にあなたが神だと認めさせました。」すると、イエスは微笑を浮かべて言った。「で、お前のキリスト教徒としてのプライドが満たされたほかに、何かいいことはあったのかね。」

(Anthony de Mello, SJ 著『The song of the Bird 121-2』より)

2月の例会 15日(日)

講話のテーマは「インドの聖人」でした。西洋が多くの科学者を生み、東洋が世界的な聖人や賢人を数多く生んだのはなぜか？ スワミ・メダサーナンダのお話は、この問に対するスワミ・ヴィヴェーカーナンダの答えから始まりました。西洋は真理の追究を外なるものに求め、東洋は内なるものに求めたからであり、方法こそ違えど真理は一つである。スワミ・ヴィヴェーカーナンダはこう説明したそうです。しかし、科学的探究のゴールは一つでも多く真理を発見することであるのに対し、霊的探求で最も大切とされるのは魂の究極の真理です。

スワミ・メダサーナンダは、次のように言いました。「インドでは、魂、すなわち人はその一生を霊性を求めて過ごし、西洋では科学を追究して過ごすのです。おそらく、東洋には霊的なことを学びやすい土壌があり、西洋は科学的なことを求める環境にあるのでしょうか。理由はどうあれ、インドは長年にわたり多くの聖人を輩出してきました。東西南北あらゆる土地で、出家在家、男女を問わずインドには多くの聖人が生まれました。こうした環境の違いは、いったいどこから生まれるのでしょうか。」

「インドでは、多くの人が、人生でなすべきことは霊性に目覚め霊性を実現することだと信じています。富や名声を追求することではなく、神を知り永遠の平和への道を見出すことに重きを置いています。インドでは、神は日々の生活の一部です。家庭とは、家の神がいらっしゃる場所で、家族は毎日神をあがめ、祈り、食べ物をお供物として捧げます。家庭に新たに持ち込まれるあらゆるもの、たとえばあいさつの言葉、問題、家族の出入りなど、すべてが神の御前に捧げられるものなのです。このように日々の生活に神の息づきを感じることで、神への愛が育つのです。恐れではなく愛なのです。」

「聖人は神とともに生きる人です。そして、聖人の魂の生き方が人々に希望を与えるのです。これまでにあったいくつもの困難な時代に聖人は常に道を示し、

靈的なことだけでなく社会的なことに関しても、人々を励まし、導いてきたのです。このような目覚めた魂たちが、インド社会の真の指導者だったのです。では、この偉大な魂たちに共通した特徴は何でしょう。」

「一つ目に、彼らはすべてを放棄していました。神への愛以外はすべて捨てていたのです。その他の結びつき、その他の追求はすべて二の次でした。二つ目に、神への献身・忠誠が次第に大きくなっていったことです。この献身があつてこそ英知が授かるのです。そのほかの特徴としては、バクティを実践したこと、弟子が師を慕うように、神の化身であるラーマかクリシュナのどちらかを理想として慕っていたことなどが挙げられます。その結果、彼らは世俗的な行為を克服し心を清めようと、何ヶ月も何年も修行をして苦しみもがきます。こうした苦しみはキリストやブッダの生涯でも経験されており、熱心な求道者は誰もが通る道です。この激しい精神的な苦しみは当然の結果です。というのも、すべてを放棄してもなお、最愛の人のお姿は目にしていないのですから。」

「このように苦しむ人は幸いです。これは大変特別なことで、靈性の大きな進歩の表れです。シュリ・ラーマクリシュナは毎晩涙を流しながら聖母に懇願したものです。『ああ、マーよ。今日もまた、あなたの姿を見られないまま終わってしまった。』こうした本人の努力と神のお慈悲により、魂の『暗い夜』が明け心の奥底にある願いがかなったのです。人間の一生の目的が達せられ、真の平和と喜び、英知を知るのです。こうして目覚めた魂の中には、すぐにでもこの目覚めを人に伝えるのが我が使命だ、などとは全く思わない者もいるし、この目覚めを人にも伝えたい、人と分かち合いたいと必死になる者もいるのです。では、どうしたら、目覚めを伝え人と分かち合えるのでしょうか。」

「目覚めた魂は、靈性の道を示すために、ともに靈性を求め、高めていく仲間を捜します。ただし、そのやり方は聖人によりまちまちです。ある人は物語や寓話を説いて聞かせます。ある人は歌や賛歌を作り、歌詞に導きの言葉を織り交ぜるだけでなく、その歌を歌うと喜びを感じられるようにします。多くの聖人が超能力を身に付けており、そうした超能力を語り継ぐ逸話には事欠きません。これは、普通の信者がこうした超能力を見ないとその聖人の靈性の大きさに気づかないからなのです。実際には、超能力は靈性に目覚めたしるしでも何でもありません。むしろ、こうした超能力を使うことは、当人にとっては最終ゴールに到達する障害となるのです。」

講話も終わりに近づいたころ、スワミはインドの聖人の例として、著名な女流詩人ミーラ・ミーラバイ (Meera Mirabai) の話をしました。ミーラは1504年、ラジャスタン州チャウカリ村で生まれました。子供のころからゴパラ(クリシュナ神の子供時代の呼び名)に夢中で、クリシュナを「ギリガラ・ナーガル(クリシュナのある神話の中での呼び名)と呼び、慕っていました。彼女は夢の中で神と結婚する夢を見たとき母親に話したことがあります。やがて彼女は成長し、チトールの王子と結婚することになりました。チトールの統治者はヒンズーの王子の中でも最も位が高いと考えられていたため、この結婚により彼女は非常に高貴な身分となりました。しかし不運にも、1527年までに父、夫、夫の父を相次いで亡くします。彼女は、自分の人生はクリシュナ神に捧げているのだと考えていたため、こうした肉親との死別を当然のものとして受け入れました。

ミーラはほとんどの時間を祈りと礼拝に費やすようになり、王室のしきたりには目もくれませんでした。夫という後ろ盾がなくなった今、こうした振る舞いのため彼女はさまざまな困難に遭い罰を受けます。皇帝は彼女の態度にひどく腹を立て、彼女を殺そうとまでしました。そのときの様子は、のちに彼女の歌に3回ほど出てきます。やがて、こうした嫌がらせが耐えられないほどになり、クリシュ

ナへの礼拝に支障をきたすようになると、彼女は王宮を永遠に後にし、マトゥーラ、ヴリンダーヴァンを巡礼し、最後にドウワリカにたどり着きました。

ミーラは、神への深く激しい愛を美しい文体で表現し、飾り気や気取りのない歌を何百曲も作りました。彼女の歌は大変人気があり、珍しいことに、金持ちにも貧者にも歌われ、今日まで愛されています。彼女の歌は、食べ物や断食、清めなどの形式や儀式をあまり重んじていません。次の歌にもその自由な解釈がうかがえます。

沐浴をすれば神に触れることができるというなら
水の中には神を知る動物がたくさんいるのでしょう

ベリーやナッツを食べれば神に触れることができるというなら
神を知るサルやコウモリがたくさんいるのでしょう

枯葉を食べれば神に触れることができるというなら
私たちよりも先にヤギが神を知るのでしょう

石像を崇拜して至高の極みに達することができるというなら
私はずっと前から御影石を礼拝していたでしょう

「どうしたらハリを知ることができるのでしょうか。」スワミは尋ねました。
「ミーラは真の愛だけがハリを知ることができると言っています。」

今月の思想

「あれこれ心配して時を無駄にすることがなければどれほど多くの平穩を得られることだろう」
ヨガチャーリヤ・ハムサラージ

近況報告

・1月19日?23日

信者のお招きで、スワミ・メダサーナンダは初めて香港を訪れ、5日間滞在しました。スワミはお招きくださった数名の信者の方々と合い、次の訪問について話をしました。スワミは、香港の非常に近代的な設備と国際的な雰囲気で大変感銘を受けたそうです。また、香港の国境近くにあるシンセンにも立ち寄りしました。

・1月23日

スワミは東京に戻るとすぐに田園調布ホールに向かい、シャマル・カールさんらが企画したサラスワティ・プージャに出席しました。参加者はおよそ100名でした。

・1月24日

スワミはすみだリバーサイドホールで行われたサラスワティ・プージャ(シュケン・ブラフマさんと有志が開催)に出席しました。文化交流プログラムに続く午後

のセッションで、スワミはバングラディッシュ大使とともにそれぞれ講話をしました。参加者はおよそ 300 人でした。

・2月6日

スワミは新橋のバガヴァッド・ギターークラス (14時?16時) で講話を行いました。このクラスは、新橋駅銀座口を出たところにある新橋駅前第2ビルの9階901号室で行われます。

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木4-18-1

Tel: 046-873-0428 Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp

[KENB011J]